

平成27年度 徳島県立城東高等学校 学校評価 総括評価表（最終）

本年度の重点目標

① 人権教育の充実

ア 人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する イ 自他を大切に作る心や態度を育成する ウ 家庭への啓発活動を推進する

② 学習指導の充実

ア 学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫・改善を図る イ 主体的に学習に取り組む態度の育成を図る
ウ 多様なニーズに応える教育課程の編成を図る

③ 進路指導の充実

ア 生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる
イ 生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細やかな指導を充実させる
ウ 進路実現のために必要な情報を迅速かつ的確に収集し、組織的・計画的な指導を行う

④ 生徒指導の充実

ア 社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的生活習慣の確立を図る イ 学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開する
ウ 良好な対人関係を構築できる社会性を育み、いじめを未然に防止する態勢を整える
エ 生徒との信頼関係を確立し、家庭との連携を図り、個に応じた生徒指導を展開する

⑤ 特別活動の推進

ア ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する イ 部活動を充実させる
ウ ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる

⑥ 健康教育の推進

ア 正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達を促進を図る
イ 学校の教育活動全体を通して、世界の人々の健康と環境問題についての学習を展開する
ウ 一人一人に応じた特別支援教育の推進を図る エ 教育相談活動の一層の充実を図る

⑦ 環境教育・安全教育の推進

ア 環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る イ 校内外の環境美化活動を推進する ウ 防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する

⑧ 読書活動の推進

ア 生徒の望ましい読書習慣の形成を図る イ 生徒の自主的な読書活動を推進する

⑨ グローバル人材の育成

ア 異文化理解学習を深め、国際的視野の涵養を図る イ 国際社会の中で主体的に生きる能力や課題を解決する力の育成を図る

⑩ 開かれた学校づくりの推進

ア 教育活動の積極的な公開を推進する イ ホームページ等を利用した積極的な情報発信を推進する ウ 地域社会、PTA、同窓会との連携を図る

⑪ 教職員の資質向上

ア 校務運営体制の効率化と充実を図る イ 教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る ウ 校内外の研修を通じて指導力の向上を図る

1 人権教育の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	人権教育に関するアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する	① 人権に配慮した教育活動ができている。 生徒 85%以上 保護者 85%以上 教員 90%以上	① 人権に配慮した教育活動 生徒 84.0% 保護者 92.1% 教員 93.3%	① 人権に配慮した教育活動 生徒 84.0% 保護者 92.1% 教員 93.3%	B A B	(評定)	人権HR活動や人権啓発行事、ボランティア活動など、人権意識の高揚を図る取り組みは、学校全体として肯定的な回答がさらに増えるよう、効果的な職員研修を行いたい。演会の公開は今後も行うべく講演内容(講師の選定など)や広報の仕方などについて検討したい。特別支援学校との交流については、今後とも交流のあり方に、持ち方について互いに協議し、有意な出会い・学びの場となるよう努めたい。
③家庭への啓発活動を推進する	①-1 「人権週間」の回数 年間4回を設定	①-1 4回実施	①-1 4回実施	B	B	学校関係者の意見
	①-2 教職員人権研修会回数 年4回実施	①-2 4回実施	①-2 4回実施	B		
	② 人権委員会、Know サークルによる啓発資料掲示 年4回以上	② 3回実施	② 3回実施	C	(所見)	人権教育は、学校の教育の中核として従来通り位置づけてもらいたい。特別支援学校との交流は生徒にとって得られるものが大きいと思うので、今後も続けてほしい。また、特別支援教育をさらに重視するために、学校独自に評価の重点目標として立派な人権教育の中で取り扱う方がよいのではないかと。日々の学校生活の中で、先生方の言動や姿勢が、人権教育につながると思う。その意識を強く持って、生徒に接してほしい。人権教育は家庭での教育も大切なので、家庭との連携を密にしてほしい。
	③-1 「人権教育展」の回数 年間3回開催	③-1 3回実施	③-1 3回実施	B		
	③-2 校誌の人権コーナーを充実	③-2 生徒の活動・作品を掲載	③-2 生徒の活動・作品を掲載	B		
	活動計画	活動計画の実施状況				
	①-1 ・年間4回「人権週間」を設定する。 ・ホームルーム活動の活性化を図るため城東人権ゼミを充実させる。 ・人権啓発行事(コンサート・映画・講演会等)の実施	①-1 ・人権ゼミをHRの実態に則した展開や人権講演会の運営に関する事前検討会や事前研修に活用した。 ・11月に人権講演会を行った。	①-1 ・人権ゼミをHRの実態に則した展開や人権講演会の運営に関する事前検討会や事前研修に活用した。 ・11月に人権講演会を行った。			
	①-2 人権意識高揚のための職員研修会を年間で2回実施する。	①-2 7月の12月に実施した。 テーマ「インターネットによる人権観測」	①-2 7月の12月に実施した。 テーマ「インターネットによる人権観測」			
	② ・人権標語の募集、展示 ・特別支援学校との交流 ・校内に人権啓発に関するパネルを固定し、人権委員会やKnow サークルの活動として、掲示物の作成に取りかかる。(年間4回以上) ・自主活動の場として、「中・高生による人権交流事業」に積極的に参加する。	② ・標語や啓発作品を全校生徒から募集し人権展で掲示。 ・7月にサイエンス部が国府支援学校で交流を行った。 ・啓発作品の掲示を2・3学期に行った。 ・Know サークル部員が人権交流事業に参加。中部ブロックの運営スタッフとして活躍した。	② ・標語や啓発作品を全校生徒から募集し人権展で掲示。 ・7月にサイエンス部が国府支援学校で交流を行った。 ・啓発作品の掲示を2・3学期に行った。 ・Know サークル部員が人権交流事業に参加。中部ブロックの運営スタッフとして活躍した。			
	③-1 P T A 総会・城東祭(文化祭)や「とくしま教育の日」に「人権教育展」をそれぞれ開催する。	③-1 ・5月, 9月, 11月に実施。	③-1 ・5月, 9月, 11月に実施。			
	③-2 校誌の人権コーナーを充実し、保護者への啓発活動を確実なものとする。	③-2 ・校誌の人権に関するページに生徒の人権作文、自主活動(Know サークル)の取り組み等を啓発資料として掲載。	③-2 ・校誌の人権に関するページに生徒の人権作文、自主活動(Know サークル)の取り組み等を啓発資料として掲載。			

2 学習指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	授業に関するアンケート（生徒）	評価指標による達成度	評定	総合評価	
① 学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫・改善を図る ② 主体的に学習に取り組む態度の育成を図る ③ 多様なニーズに応える教育課程の編成を図る	① 授業の工夫改善度 学習に対する動機付け 学習に対する意欲度	各教科 75%以上 75%以上 75%以上	① 工夫改善 75%以上 9教科 (平均 82.1%) 動機付け 83.7% 意欲度(興味関心をもてる) 75%以上 4教科 (平均 73.6%)	A A B C B	B	学習意欲を引き出すと、授業個々の成果を目標を達成するに意欲がたまる。予習・復習の時間が増え、学習の効率化が図られる。大きな課題と考える。主体的にも、生徒が伸びていくと指摘され、克服の道に、地道に、継続して取り組むべきか、もしも刻々と変化する動向にも対応しなければならぬ。
	② 予習への取り組み度 復習への取り組み度	50%以上 50%以上	② 予習への取組度 37.7% 復習への取組度 60.6%	B C B		
	③ 進路希望にあったコース(教科・科目)の満足度	80%以上	③ 生徒コース満足度 91.6%	A		
-----		① 研究授業参加回数 授業公開	各教員年2回 年2回	① 各教員年1回以下 年2回実施	C B	学校関係者の意見 予習の大切さを知り、姿勢を導き、継続して欲しい。予習の取り組みが身に付くことにより、効果が高レベルで学習できる。アクティブラーニングの観点から、予習は重要な要素である。自分が何を学ばなければならないか、意識づけすることが大切だと思ふ。クエスティングは、アクティブラーニングに活用するに際して、このことを生徒にも、きちんと説明すべきであろう。
② 生徒の学習時間(1日あたり) 30分未満の生徒の割合 3時間を超える生徒の割合 1日あたりの平均学習時間	1%以下 50%以上 3時間以上	② (4~12月) 1年 0.3% 2年 0.3% 1年 34.2% 2年 42.5% 1年 2.6時間 2年 2.9時間	A C B			
③ 教科研究会開催回数	年3回	③ 各教科平均 年3回以上実施	B			
活動計画		活動計画の実施状況		(所見) 評価指標による達成度によると、授業の工夫改善度と学習に対する動機づけは、それぞれ目標を達成したが、学習に対する意欲度が達成できていない。また、授業の予習への取り組み度は今年度も指標を達成するに至っていない。生徒の家庭学習時間も、指標を達成できなかった。活動計画については、公開授業、家庭学習時間調査、授業時数の確保等、概ね順調に実施されており、良い成果をあげている。また、教科研究会についても各教科で、学期毎に実施している。		
① 教科研究会を定期的実施し、授業力の向上・指導案の研究をする。 シラバスの改訂を行う。 研究授業、公開授業等で他の教員の授業を参観し授業力の向上を図る。		① シラバスを作成し、ホームページに掲載。 公開授業2回で相互参観を実施。				
② 第1学年で英語、数学、国語の学習ガイダンスを4月に特設授業の中で実施する。 好ましい学習態度を理解させる。 予習・復習、授業の受け方を指導する。 家庭学習時間調査を毎日実施する。 週末課題、週末テストを実施し、家庭学習の習慣化を徹底する。 学年団による学習指導、生活指導の充実を図る。 基礎学力養成講座、再テストを実施する。		② 英数国理社の学習ガイダンスを4/13、4/14に実施。 予習中心の学習スタイルを指導する。 家庭学習調査を毎日実施。 各教科で課題等を実施する。 サクセス週間で実施。 基礎学力養成講座8月17、18日に実施。				
③ 学校行事の精選、定期考査の工夫を行い、授業時数を確保する。 教育課程検討委員会において、教育課程やコース制の在り方等を検討する。		③ 定期考査最終日に授業を実施した。 平成28年度教育課程編成終了。				

3 進路指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	進路指導に関するアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
① 生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる	① 総合学習「クエスト」の有用度	80%以上	① 有用度 生徒 69.3% 保護者 86.0%	C B B B B	(評定)	SGHにおいて大学での講義、ゼミ、イベント等に参加しており、さらに深い連携を進めたい。企業との連携についても常に検討を加え、より効果の高い研修先の開拓に努めたい。課題研究コンクール応募は6～9月締切のため、応募間に合わない。今後2年次の研究を3年次に応募する方向を模索したい。保護者対象進路説明会では、保護者にできるだけ分かりやすく情報を伝えられるよう工夫した。今後も、学校からの適切な情報発信を心がけたい。本年度より新課程や実施となり、進度や指導方法、入試への対応等をしっかりと情報収集し、他県・他校等の情報を十分に収集しながら取り組んでいきたい。
	② 城東ゼミ（補習）の有用度	70%以上	② 有用度 生徒 72.9% 保護者 89.1%			
② 生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細かな指導を充実させる	①-1 大学見学・企業見学の回数	各1回以上	①-1 8/4～7, 9/18に実施した。	B B B B B	B	
	①-2 大学等授業体験の実施回数	1回以上	①-2 10/22～24に実施した。			
③ 進路実現のために必要な情報を迅速かつ的確に収集し、組織的・計画的な指導を行う	①-3 職業ガイダンスの回数	1回以上	①-3 1/28に実施した。	A A C B B B B		
	①-4 省庁・国際機関での研修	各1回以上	①-4 OECD, FAO, WHO神戸で研修			
	②-1 城東ゼミ（補習）の開設講座数	100講座以上	②-1 城東ゼミ（補習）の開設講座数 113講座			
	②-2 国公立大学合格者の割合	63%以上	②-2 66% (207名, 現役のみ)			
	②-3 難関大学（東京大学、京都大学、大阪大学、医学部・歯学部・薬学部など）合格者	40名以上	②-3 51名 (現役のみ)			
	②-4 校外模試偏差値70以上	35名以上	②-4 70以上1年18名 2年27名 60以上1年118名 2年113名 (3教科 10月31日進研模試)			
	②-5 課題研究発表会の回数	1回	②-5 2/9に実施。			
	②-6 課題研究コンクール入賞	1班以上	②-6 国際公共政策カンファレンス(大阪大学主催) 優秀賞受賞			
	②-7 学力テストの講評の配布回数	11回以上	②-7 学力テストの講評11回配布			
	③ 進路説明会回数	年間3回実施 (各学年1回以上)	③ 進路説明会回数 4回実施。			
活動計画	活動計画の実施状況		(所見)			
①-1 東京・京都大学見学の実施。企業研修の実施。オープンキャンパスへの参加の推奨。	①-1 東大10名、京大84名参加。企業研修は319名参加。		職業観を育成し、目標をもたせるために、大学見学や企業研修、大学体験授業やおよび国際機関での研修や課題研究発表会は、計画通り実施することができた。しかし、生徒アンケートでは「クエスト」の評価が低いので、日々の取組が必要である。進路説明会を4回実施した。外部の講師を4回招いての講演会と本校教員による説明会を行い、保護者への情報発信がしっかりとできたと思われる。校内では各学年で模試分析会を3年だけでなく1・2年でも3回実施し、教員間やクラス間で情報を共有することができた。			
①-2 第2学年での大学等体験授業の実施。	①-2 3日間で143名が受講。					
①-3 第1学年での職業ガイダンスの実施。	①-3 1/28に実施。講師27名来校。					
①-4 外務省・文科省等での研修の実施。	①-4 OECD, FAO, WHO神戸で研修					
②-1 補習、模擬試験等を実施。	②-1 毎週46講座(3年生) 43講座(2年生) 24講座(1年生)					
②-2 進路検討会を第3学年で年4回実施。	②-2 3年生 4回					
②-3 難関大対象模試を各学年2回以上実施。	②-3 各学年3回					
②-4 模試分析会を第1, 2学年で3回実施。	②-4 1, 2年生 3回					
②-5 第2学年で課題研究発表会の実施。	②-5 課題研究発表会を実施。					
②-6 課題研究コンクールへの応募の督励。	②-6 4/19国際公共政策カンファレンス1班(7名)参加し優秀賞受賞					
②-7 学力テストの講評を全学年で延べ11回配布。	②-7 学力テストの講評11回配布					
③ 進路説明会の実施。(各学年1回) ・最難関大学進学希望者説明会の実施。 ・難関大学、医・歯・薬学部進学希望者説明会の実施。	③ 各学年1回(3年2回) ・3年1回, 2年2回, 1年1回実施					
学校関係者の意見						
大学の名前にこだわらず、学部や学科など何を学ぶのかということを中心に生徒に伝えてほしい。地方創生は、地方の魅力を再認識する教育から始める。東京で活躍できる人材の流出を促すのではなく、地元で貢献できる人材を育てる進路を大切にしたい。進路を「クエスト」について、生徒自身が必要だと感じ、自ら取り組んでいきたいという意欲を増やすためには、具体的にどのような方法があるのか、考える必要がある。						

4 生徒指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	生徒指導についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
<p>①社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的な生活習慣の確立を図る</p> <p>②学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開する</p> <p>③良好な対人関係を構築できる社会性を育み、いじめを未然に防止する態勢を整える</p> <p>④生徒との信頼関係を確立し、家庭との連携を図り、個に応じた生徒指導を展開する</p>	<p>①-1 服装・頭髪・あいさつが身につけている。 生徒 80%以上 教員 85%以上</p> <p>①-2 ルール・マナーを守っている。 生徒 85%以上</p> <p>③ いじめを未然に防止するため、積極的な取り組みを行っている。（面接・アンケート等）</p> <p>④ 組織的な生徒指導ができています。 教員・保護者 85%以上</p>	<p>①-1 服装・頭髪が守れている 生徒88.5%，教員96.7%</p> <p>①-1 あいさつができています 生徒77.3%，教員93.4%</p> <p>①-2 生徒 85.3%</p> <p>③ いじめに関するアンケート・面接を実施した。</p> <p>④ 教員 80.0% 保護者 94.8%</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p>	<p>登校時の自転車事故が非常に多い。事故が起きた時の対応は、以前より出来ているので、継続指導を行う。交通事故の危険予測学習等を視聴覚機器を利用し、行いたい。駐輪場のマナーアップ運動やあいさつ運動は継続して行いたい。携帯電話・スマートフォンに関する指導は、1年生で講演を計画しているが、全学年でHR活動等を利用して継続指導を行いたい。</p>	
	<p>①-1 生活委員・部活動生徒による登下校でのあいさつ・駐輪場のマナーアップ運動の実施回数 年間3回</p> <p>①-2 交通マナーアップ運動実施回数 年1回</p> <p>② 道徳教育のHR活動の回数 年1回</p> <p>③ いじめに関するHR活動の回数 年2回</p> <p>④ クラス分析会の実施 年3回</p>	<p>①-1 学期に3回以上あいさつ・駐輪場のマナーアップ運動を行った。</p> <p>①-2 本町交差点で1回行った。</p> <p>② 3月に実施</p> <p>③ いじめの未然防止を目的に、学校生活や携帯電話についてのHRを2回行った。</p> <p>④ 年間3回実施</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>			<p>学校関係者の意見</p>
	<p>活動計画</p> <p>①-1 ・各学年での服装・頭髪指導を充実させる。（年3回） ・生活委員・部活動生徒によるあいさつ運動・自転車駐輪場のマナーアップ運動を各学期それぞれ1回実施。</p> <p>①-2 ・遅刻の多い生徒に対し、段階的な指導として担任・生徒指導課・学年主任・管理職による個別指導を行う。状況に応じて保護者を呼んで指導を行う。 ・交通マナーアップ運動・携帯電話のマナーについての講演などを通じて、全校生徒に社会のルールを守る事やマナー指導を行う。</p> <p>② 道徳教育に関するHR活動を各学年で実施する。</p> <p>③ いじめ防止等対策委員会を定期的開催し、生徒の状況等について情報交換を行うと共に、必要な対策等について協議を行う。</p> <p>④ 様々な問題を抱えた生徒に対して、学年や部活動顧問及び生徒指導課等が連携し、多方面から生徒の家庭状況や心身の把握に努め、個々にあった適切な指導を模索し、効果的な指導に努める。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 ・各学年の生徒課員を中心に年間3回行った。 ・各学期に1回以上あいさつ、駐輪場のマナーアップ運動を行った。</p> <p>①-2 ・毎日の遅刻者を記録している。遅刻用紙記入後の生徒に直接指導し、多遅刻者は担任が保護者に電話や面談で協力を依頼した。 ・携帯電話のマナーについての講演を1回行っている。</p> <p>② 3月に実施</p> <p>③ クラス分析会等で話し合い、生徒の状況を学年団で把握している。</p> <p>④ 気になる生徒や相談のあった生徒に対しては、関係教員と連携をとり、個別に面談を行うなど、対応した。</p>	<p>(所見)</p> <p>頭髪については、特に目立つ生徒はいないが、服装についてはボタンが留められていなかったり、ネクタイが緩んでいたり、スカートの短い生徒が、数人みられた。</p> <p>あいさつに関しては、生徒からの声掛けも増えてきたように思える。</p> <p>登校時の自転車事故の件数が非常に多く、度々注意喚起を行うと共に、家庭への協力も依頼した。</p> <p>いじめに関しては、クラス分析会等で早期発見できるように継続していく。全校生徒にアンケートを行い、生徒からの声を聞く機会を設けた。</p> <p>問題行動のあった者には、早期に対応し関係教員、保護者と連携を取り、全職員共通理解を図った。</p>	<p>年度の後半で自転車事故が減少したことは本当に良かったと思うが、事故は命に関わる安全運転に関してはさらに指導を徹底してほしい。</p> <p>スマートフォンについては、様々な問題を含んでおり、今後も継続して指導してもらいたい。</p> <p>朝あいさつをしている姿がよく見かけられる。服装・頭髪・あいさつが身につけているのがすばらしい。今後もあいさつが当たり前の生活態度は、学業にも大きく影響して生活指導の引き取り組んでもらえるよう望む。</p>		

5 特別活動の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	特別活動についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
① ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する	① 生徒会活動が活発である。 (生徒・保護者・教員) 80%以上	① 生徒 74.3% 教員 93.3% 保護者 85.0%	B	B	(評定)	本校では部活動が活発に行われているが、部の数も多く顧問教員数の不足等の理由により、部活動の精選を引き続き行う必要がある。
	② 部活動の入部率 90%以上	② 入部率（12月末現在） 90.4%				
② 部活動を充実させる	③-1 募金活動などのボランティア活動に積極的に取り組む。 70%以上	③-1 生徒 64.8% 保護者 74.5%	B	B	本年度の清掃ボランティア活動は、2学年と市内清掃活動を囲ったことにより、次年度からは学年毎に実施時期をずらす等の改善が必要である。	
	③-2 清掃ボランティア満足度 90%以上	③-2 アンケートでの肯定的意見 生徒(1年) 97.1% 生徒(2年) 96.4%	A			
③ ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる	③ 1・2年生全員による清掃ボランティア活動を年1回以上実施。	③ 清掃ボランティア活動を10/16(金)に実施。	A	A	(所見) 生徒会活動については、本年度も計画どおりの活動を主体的に行うことができた。アンケート結果からは、昨年度にくらべて12.6ポイントアップ(生徒)の肯定的意見を得、生徒会活動が徐々に目に見える形で実施できつつあるといえる。部活動でも、文化部・運動部とも活発に活動し、種々の大会において、数多くの部が上位の成績を収めることができた。活動にも生徒会や部活動が積極的に参加するようになった。また、本年度も昨年度に引き続き1・2年生全員による清掃ボランティア活動を実施するところとなり、生徒がボランティア活動に意欲を示すなど、達成感を得ることができた。また、自発的に参加するようになったこと、加える機会	
	活動計画	活動計画の実施状況				
	① ・生徒会活動や学校行事への積極的参加 ・朝のあいさつ運動の実施 ・委員会活動の充実	① ・各種委員会、生徒会研修会を実施した。学校祭では生徒会役員、各種委員で実行委員会をつくり運営に携わった。			学校関係者の意見	
	② ・部活動と学習面との両立を図る。 ・下校時間の遵守 ・部活動の精選	② ・試験期間中は部活動を制限し学習時間の確保に努めている。 ・平日午後8時完全下校を実施している。 ・部活動顧問の適正配置を実施			部活動が活発に行われたいことなので、今後は文武両道の学校を目指してがんばってほしい。学校がボランティア活動に力を入れていくことは非常に良いことなので、ぜひ継続してほしい。生徒が自主的にボランティア活動に取り組もうとする姿勢が素晴らしい。ボランティアは貴重な体験であり、ボランティアをとおして学べないことも多い。ただ、アンケート結果から教員に比べて低いのが気になる。満足しているのか、問題点を見いだす必要はないか。ボランティア活動について、日時や内容などをHP等を使って告知し、保護者にも情報提供してほしい。	
	③-1 ・ボランティア活動への積極的参加について、生徒会執行部やJRCとの協力の中で実践する。 ・地域(施設や諸学校など)に根づいたボランティア活動の実践。(生徒会・Knowサークル・邦楽部・オーケストラ・合唱部・茶道部・華道部・外語部・体育部など)	③-1 ・JRCと協力して災害義援金募金活動や歳末助け合い運動に参加した。 ・4月に邦楽部・書道部が老健施設を訪問し、演奏・書道パフォーマンスを行った。 ・徳島マラソンのボランティアに参加予定。(平成28年4月、55名申込)				
	③-2 ・生徒会や体育部による学校周辺の清掃活動の実施。 ・1・2年生全員による市内道路等の清掃ボランティア活動を年1回以上実施。	③-2 ・体育部による朝の学校周辺清掃活動を実施している。 ・清掃ボランティア活動を10/16(金)に実施。				

6 健康教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策	
	評価指標	保健・教育相談のアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価		
①正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達を促進を図る ②学校の教育活動全体を通して、世界の人々の健康と環境問題についての学習を展開する ③一人一人に応じた特別支援教育の推進を図る。 ④教育相談活動の一層の充実を図る。	① 保健室の生徒への応急処置や心の悩み等への対応の良好の割合 75%以上	① 保健だより」の発行 10回以上 ①-2 尿検査の提出率 100% ③ 職員研修会の実施回数 年2回	① 生徒 85.5%	A B A	B	生徒の心身の健康問題は多様化している。ひとりひとりに応じた適切な対応が必要であり、そのためには校内の支援体制及び関係機関との連携が必要である。食育・健康教育は各教科・各課との連携を図り、生徒や保護者への啓発活動をさらに進めていく。また、文化祭や掲示板の活用をおし、生徒の取り組みを継続しつつ健康と環境問題の理解を深めていく。保健室前の掲示板に「Global Health」コーナーを設けて、世界の健康や環境問題について、啓発していく。問題を抱えていてもカウンセラーや保健室、教員間で連携して早期に対応できた生徒は重症化せず学校生活に適應する。入学当初から登校できなかつたり、突然登校しなくなる生徒が毎年数名存在している。そういった生徒への対応として外部機関との連携を強化するとともに、現在の教育相談体制の維持に努める。	
	② 世界の健康と環境問題についての理解を深める。 70%以上		② 生徒 67.5%				A B
	③ 親身になって生徒の悩みや相談に応じてくれる。 75%以上		③ 生徒 83.4%				
	①-1 「保健だより」の発行 10回以上	①-1 「保健だより」の発行 15回	A				
①-2 尿検査の提出率 100%	①-2 尿検査の提出率 100%	B					
③ 職員研修会の実施回数 年2回	③ 計2回実施 (1学期1回, 2学期1回)	B					
活動計画	活動計画の実施状況	(所見)					
① 「保健だより」の発行を年10回以上。 保健委員会での生徒の自主的活動の推進。 文化祭での展示等により、健康増進への啓発を図る。 各教科・各課と連携し、食育啓発を図る。	① 「保健だより」を15回発行。 保健委員が、シャボネットの補充やアルコール消毒液の点検を行った。 文化祭で「生活習慣改善」についての生徒の取り組みや標語を掲示した。 各教科・各課との連携や「保健だより」を通して、食育を実施した。	生徒の自己評価結果にあるように保健室での対応については高い評価を得た。また、保健委員会の活動や、文化祭での展示など生徒の取り組みも熱心であった。食育や世界の人々の健康と環境問題について、「保健だより」の「Global Health」コーナーで新しく取り入れたり、保健室前の掲示板を使って情報提供をしたり、各課・各教科を通して関心を高めたりする取り組みを続けてきたが、自己評価結果にはその効果があまり表れてきていない。本年度は1・3学年に身心に問題を抱えた生徒が多く出たが、教育相談に繋いだ生徒については、カウンセラーと教員との連携がよくなり重症化を防ぐことができた。また、問題を抱えた生徒の早期発見・対応については、学年会で情報交換や日常的な情報交換がスムーズに行われており、協力体制を取りやすい状況を維持できている。					
② 各教科・各課と連携し、世界の人々の健康と環境問題解決への啓発を図る。 「保健だより」に「Global Health」コーナーを設け、興味/関心を深める。	② 世界の人々の健康と環境問題について各教科で学んだ。 「保健だより」の「Global Health」コーナーでは世界の健康問題や環境問題を取り上げた。						
③ 特別支援教育に関する職員研修会を1学期、2学期にそれぞれ1回実施する。	③ 5.20(水), 10.15(木)に校内研修を実施した。						
④-1 各学年会を利用して、気になる生徒についての情報交換を定期的に行い、心身や生活面、学業などについて悩みや問題を抱えている生徒を早期に発見し、支援を行う。	④-1 各学年会で各学期2回ずつ情報交換を行って教師間の連携を図り、生徒の状況が悪化する前に教育相談に繋ぐなど早期支援を行った。						
④-2 カウンセラーや専門機関と連携した教育相談活動の充実。	④-2 教育相談の利用状況 (H27.4.1~H28.3月末) ・開室日数: 27日 ・利用回数 1年(52回) 2年(25回) 3年(49回)						
学校関係者の意見							
思春期の悩みを抱えた生徒が一人で悩むことのないよう、教育相談等が充実させ、生徒が悩みを相談しやすい環境を作りたい。スクールカウンセラーの定期的な訪問相談があればよいと思う。							

7 環境教育・安全教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価		次年度への課題と今後の改善方策	
	評価指標	環境教育に関するアンケート	評価指標による達成度	評定		総合評価
① 環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る	① 環境美化活動に積極的に取り組んでいる。80%以上	② 清掃活動に熱心に取り組み、美しい環境を保つよう心掛けている。80%以上	① アンケート結果生徒75.7%	B	(評定)	環境問題への意識高揚のため、節電・節水、水ごみ分別など、環境美化活動の啓発を積極的に実施している。また、清掃活動の体験を通して、環境美化の大切さを伝えるとともに、防災訓練等を通じて、防災意識を高めている。実践力を高めるための取り組みは、毎年の行事として行っている。また、環境美化週間を設け、ゴミの減量化や分別の意識を高める活動を行っている。また、環境委員による放課後の清掃奉仕活動も実施している。また、防災訓練の合同訓練や、Jアラートによる訓練も実施している。また、職員・生徒への心肺蘇生法の講習会も実施している。また、「防災クラブ」の活動も推進している。
			② アンケート結果生徒78.4%	B		
② 校内外の環境美化活動を推進する	② 環境委員による清掃奉仕活動（放課後）を年間5回以上実施する。	② 環境委員による清掃奉仕活動を7回実施 (4/30, 6/10, 7/10, 10/30, 11/20, 1/20, 2/8)	② 環境委員による清掃奉仕活動を7回実施 (4/30, 6/10, 7/10, 10/30, 11/20, 1/20, 2/8)	A	B	環境問題への意識高揚のため、節電・節水、水ごみ分別など、環境美化活動の啓発を積極的に実施している。また、清掃活動の体験を通して、環境美化の大切さを伝えるとともに、防災訓練等を通じて、防災意識を高めている。実践力を高めるための取り組みは、毎年の行事として行っている。また、環境美化週間を設け、ゴミの減量化や分別の意識を高める活動を行っている。また、環境委員による放課後の清掃奉仕活動も実施している。また、防災訓練の合同訓練や、Jアラートによる訓練も実施している。また、職員・生徒への心肺蘇生法の講習会も実施している。また、「防災クラブ」の活動も推進している。
③ 防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する	③-1 避難訓練を年2回実施する。	③-1 地震津波避難訓練実施(7/15) 火災避難訓練実施(10/13)	③-1 地震津波避難訓練実施(7/15) 火災避難訓練実施(10/13)	B		
	③-2 心肺蘇生法の講習会を実施する。	③-2 1年生対象心肺蘇生法講習会実施。(6/23) 教職員対象心肺蘇生法講習会実施。(6/23)	③-2 1年生対象心肺蘇生法講習会実施。(6/23) 教職員対象心肺蘇生法講習会実施。(6/23)	B		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 2学期の大きな行事の合間に、環境美化週間を設け、ゴミの減量化や分別の意識を高める活動を行っている。また、環境委員による放課後の清掃奉仕活動も実施している。また、防災訓練の合同訓練や、Jアラートによる訓練も実施している。また、職員・生徒への心肺蘇生法の講習会も実施している。また、「防災クラブ」の活動も推進している。			
	① ・節電・節水の呼びかけ ・環境問題に関する記事の掲示	① 節電・節水の呼びかけのために、電気・水道使用量をグラフ化し、掲示した。	① 節電・節水の呼びかけのために、電気・水道使用量をグラフ化し、掲示した。			
	② ・毎日の清掃を徹底 ・環境委員による校内や学校周辺の清掃奉仕活動の実施	② 毎月10日、20日、30日は、「ゴミ0の日」として、ゴミを減らす呼びかけを行った。また環境委員による放課後の清掃奉仕活動を7回実施した。	② 毎月10日、20日、30日は、「ゴミ0の日」として、ゴミを減らす呼びかけを行った。また環境委員による放課後の清掃奉仕活動を7回実施した。			
	③-1 防災訓練の実施及び避難経路の確認	③-1 地震・津波避難訓練（内町保育所との合同訓練）1回、火災避難訓練1回、その他Jアラートによる訓練2回実施した。	③-1 地震・津波避難訓練（内町保育所との合同訓練）1回、火災避難訓練1回、その他Jアラートによる訓練2回実施した。			
	③-2 職員・生徒への心肺蘇生法の講習会をそれぞれ1回実施	③-2 心肺蘇生法の講習会を職員生徒1回ずつ実施した。	③-2 心肺蘇生法の講習会を職員生徒1回ずつ実施した。			
	③-3 「防災クラブ」の活動を推進	③-3 防災クラブの活動として、校外防災イベントへの参加、文化祭での防災シミュレーションによる生徒・一般の方への啓発、備蓄品の点検などを実施した。	③-3 防災クラブの活動として、校外防災イベントへの参加、文化祭での防災シミュレーションによる生徒・一般の方への啓発、備蓄品の点検などを実施した。			
						学校関係者の意見 内町幼稚園と連携した避難訓練はとてよい取り組みである。地域の方々の交流は大変大切であり、防災活動をもっとするのは非常によい。地域の中の高校として、地域と連絡しながら防災リーダーシップをとってほしい。防災リーダーという考え方は良い。ただ、安全とは何かということも深く考えてほしい。

8 読書活動の推進

具体的目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	読書活動についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①生徒の望ましい読書習慣の形成を図る ②生徒の自主的な読書活動を推進する	①-1 読書活動に学校として積極的に取り組んでいる。 65%以上 ①-2 生徒一人あたりの年間図書貸出数。 4冊以上 ②-1 読書会、読書週間の実施回数をそれぞれ年2回以上。 ②-2 ツールとして、図書館の資料を活用するスキルを身につける。 65%以上	①-1 生徒 61.6% 保護者 81.7% 職員 96.6% ①-2 5.5冊（2月末現在） ②-1 1・2学期に各1回実施。 ②-2 3年生で学習等に図書館の資料を利用する場合、利用の方法等が分かっている割合が20%程度である。	B A B C	(評定) B	今年度は、国際的視野を広げる一助となるよう、関連書籍を「ライブラリーニュース」や展示などで紹介したり、作家や作家の展示などを活用して、図書館へアプローチしてきた。次年度は、本年度の取り組みをさらに高め、高まるよう工夫していきたい。	
	①-1・読書週間を1・2学期にそれぞれ1回実施する。 ・学校ホームページに図書館情報を掲載する。 ・「ライブラリーニュース」を毎月発行する。 ①-2 読書会を1・2学期にそれぞれ1回以上実施する。 ②-1 ・図書委員を中心に、読書会・読書週間を利用して読書啓発をおこなう。 ・生活記録の「読書」欄を利用し、読書への関心・意欲を高める。 ②-2 ・SGHをサポートし、国際的視野を広げる一助となるように関連書籍を「ライブラリーニュース」や展示などで紹介していく。 ・「教科書に出てくる作家の特集」や「入試で用いられている作家の特集」の展示をする。	①-1・4月27日～5月1日と10月26日～10月30日に読書週間を実施した。 ・学校ホームページの「図書館だより」の中に図書館情報を掲載した。 ・「ライブラリーニュース」を8月を除いて毎月発行した。 ①-2 読書会を「好きな本・お薦めの本」をテーマに6月16日に開催した。 12月17日には、佐々木美登先生（四国大学）による「ブンガクおもしろ講座」を開催した。 ②-1 ・図書委員を中心に、読書会を開催し、読書啓発を実施した。 ・生活記録に「読書」欄を設け、利用してもらっている。 ②-2 「教科書に出てくる本・教科書を深める本」「映像化された本・される本」という展示を通年で実施した。また、「夏だ！本を読もう！〈Special〉 先生のおすすめ本」「戦後70年を考える」「小論文を書くために読んでおきたい図書」等の展示を実施	(所見) アンケートの結果は、昨年と比べ、生徒が1.7%減少したが、貸出数は0.3増加した。生徒の読書への興味を引き出せるように、展示のバラエティを増やし、小論文の学習や、クエストの学習にも、図書の利用が増えたと思われる。また、図書委員が各クラスで「ライブラリーニュース」の紹介など回数が増えたり、今まで図書館を利用しなかった生徒へのアプローチができた。本校図書館の貸出し数が増えていることからも、読書量は増加していると考えられる。	学校関係者の意見 生徒の読書に対する興味・関心が高まるように、読書習慣の形成に向けていろいろな工夫を取り組んだ結果、図書館の利用が増えていることがよくわかった。読書習慣は人間の成長にとって非常に大事である。これから読書の習慣づけを推進してほしい。図書館の貸出し冊数等、ツールの数値は、近年本数が増えている（キンドル等）、図書館以外で読んだ本も含む数値ではないか。		

9 グローバル人材の育成

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	グローバル人材の育成についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
① 異文化理解学習を通じて、国際協調の精神の涵養を図る	①②	国際交流・国際理解教育に積極的に取り組んでいる。(生徒・保護者・教員) 90%以上	①② 生徒 86.8% 保護者 91.7% 教職員 96.7%	B A A	(評定) B	次年度は、インドネシア研修の予定をたし、改善する。さらにより参加できる生徒が、海外には、調べる機会も設けたい。課題研究班の中から英語で発表できるように、プレゼンテーション作成の段階から指導できるようにしたい。
	②	国際社会の中で主体的に生きる能力や課題を解決する力の育成を図る	①-1 2回展示。 ①-2 できなかった。 ②-1 16名が参加。 ②-2 9名が入賞。 ②-3 5回参加。 ②-4 21名が参加(予定含む) ②-5 2回(予定) ②-6 1組が発表	B C A B B C B C		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 授業の進め方、異文化理解の学習を進めたいが、SGHの事業の行いを考える生徒の意識の高さ、活動の振り返りや海外研修生とのつながりなど、SGHの活動は、生徒の自主性を伸ばすだけでなく、国際理解の深化を図りたい。SGHの活動は、生徒の自主性を伸ばすだけでなく、国際理解の深化を図りたい。		学校関係者の意見	
	①-1 文化祭などでサン・ジョセフ校との交流記録の展示をする。 ①-2 英語の授業を中心にサン・ジョセフ校との交流を活用し、異文化理解の授業を実施する。 ②-1 参加を奨励するとともに、参加生徒へきめ細かな指導をする。 ②-3 ・JICA「高校生国際教育体験プログラム」への参加を奨励する。 ・地元大学や国際交流協会等と連携して留学生や海外大学生他、外国人との交流を図る。 ②-4 参加を奨励する。 ②-5 フランスとインドネシア研修に参加した生徒による帰国報告会を実施する。 ②-6 海外研修に参加した生徒を中心に英語で発表ができるように指導する。	①-1 5月と9月に展示した。 ①-2 全クラスで系統だてて実施することはできなかった。 ②-1 英語弁論大会に2名、英作文コンテストに2名、絵本翻訳コンクールに3名、JICAエッセイコンテストに3名、国際教育振興弁論大会に6名が参加した。 ②-2 英語弁論大会で2名、英作文コンテストで2名、国際教育振興弁論大会で5名が入賞した。 ②-3 徳島サマースクール、日本語教室でのボランティア活動、JICA高校生国際教育体験プログラム、徳島大学サマースクール、アリアンス・フランス、セーブル徳島の行事に参加した。 ②-4 インドネシア研修に14名が参加。 ②-5 7月と2月に実施した。 ②-6 課題研究班の中から英語で発表するグループはないが、SGH事業やサマースクールの参加者による英語のグループ発表を実施する予定。	SGH活動の内容が、自主性を伸ばすだけでなく、国際理解の深化を図りたい。SGHの活動は、生徒の自主性を伸ばすだけでなく、国際理解の深化を図りたい。		島日本、日本の歴史や文化を学ぶことも大事である。	

10 開かれた学校づくりの推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	開かれた学校づくりについてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①教育活動の積極的な公開を推進する	①	教育活動の公開が学校の理解に役立っている（保護者） 90%以上	① 保護者 93.3%	B	(評定)	<p>今年度初めて約1週間間の「授業公開週間」を実施したが、地域の方々にも知らせてもらえらるよう、広報の仕方や日時の設定など実施計画の再検討を図る。中学生体験入学や学校入会など、本校やその保護者に対する成果を上げていく。さらに、SGH関連の活動も、更新回数も増えている。しかし、情報提供がほとんど点</p> <p>教育活動の公開が学校の理解に役立っていると回答した保護者が93.3%にのぼり、授業公開や学校行事の公開等が好意的に受け止めてもらえている。また、体験入学や学校説明会に参加した中学生やその保護者等についても、左記の結果のとおり良い印象を持ってもらっている。平日に行われる一般公開については、参加者が少ないが、県民文化祭や本校卒業生によるコンサートなど、開かれた学校づくりの機会を積極的に実施してもらったが、保護者や地域の人々が加わり、学校を知ってもらうよい機会になると思う。また、地域に開かれた学校として、地域を誇り文化に接し、地元を誇り交流活動をしてはどうか。</p>
	②	ホームページが学校の情報を得たり、学校の活動を理解するのに役立っている（利用の保護者対象） 85%以上	② 保護者 86.0%			
②ホームページ等を利用しての積極的な情報発信を推進する	-----		-----			
	①-1	授業公開を年2回実施 参加者数（合計） 600名以上	①-1 5月、11月の2回実施 参加者合計 758名	A	B	
③地域社会、PTA、同窓会との連携を図る	①-2	中学生体験入学の参加者数 中学生 800名以上 保護者・教員 150名以上	①-2 中学生体験入学(8月4日) 参加中学生 727名 参加保護者・教員 216名	B		
	②	ホームページの更新回数 年120回以上	② 126回更新(3/23現在)	A		
	③-1	地域住民、PTA及び同窓会関係者を委員とする学校支援協議会の開催回数 年2回	③-1 年2回実施	B		
	③-2	中学生及びその保護者を対象とした、学校説明会の回数 年3回	③-2 年3回実施	B		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)			
	①-1 休日の授業公開日と授業公開週間（平日4日間）を実施する。中学校、大学、学校評議員、保護者等への広報を充実させる。	①-1 第1回(5月7日(土)実施) 710名来校 第2回(11月2日(月)～6日(金) 授業公開週間 実施) 48名来校	<p>教育活動の公開が学校の理解に役立っていると回答した保護者が93.3%にのぼり、授業公開や学校行事の公開等が好意的に受け止めてもらえている。また、体験入学や学校説明会に参加した中学生やその保護者等についても、左記の結果のとおり良い印象を持ってもらっている。平日に行われる一般公開については、参加者が少ないが、県民文化祭や本校卒業生によるコンサートなど、開かれた学校づくりの機会を積極的に実施してもらったが、保護者や地域の人々が加わり、学校を知ってもらうよい機会になると思う。また、地域に開かれた学校として、地域を誇り文化に接し、地元を誇り交流活動をしてはどうか。</p>			
	①-2 中学生体験入学の実施については体験授業、体験入部の内容や方法等について、効果的なものになるよう改善する。	①-2 体験入学アンケート 体験授業参加中学生の87.9%が「興味を持てた」と評価。体験入部参加中学生の95.8%が「良かった」と評価した。				
	② ホームページを見やすく、使いやすくなるよう改善に努めるとともに、内容の更新をできるだけ速やかに行う。	② 従来の広報に加え、SGHの取組についても積極的に更新した。				
	③-1 学校支援協議会を年2回（6月、3月）開催する。	③-1 第1回 6月30日実施 第2回 3月 実施(予定)				
	③-2 学校説明会を休日に複数回実施し、中学生や保護者が参加しやすいようにする。また、中学校への案内や広報の方法を工夫し、参加者を増やす。	③-2 第1回 9月19日(土)91名来校 (中学生31名・保護者60名) 第2回10月1日(木)16名来校 (中学生6名・保護者10名) 第3回10月25日(日)86名来校 (中学生33名・保護者53名)				
学校関係者の意見						
<p>ホームページが充実している。シラバスなどの学習計画を立てるために、もつと活用すればよいと思う。卒業生によるコンサートや、授業公開などの学校公開については、今後回数を増やして積極的に実施してもらったが、保護者や地域の人々が加わり、学校を知ってもらうよい機会になると思う。また、地域に開かれた学校として、地域を誇り文化に接し、地元を誇り交流活動をしてはどうか。</p>						

11 教職員の資質向上

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策		
	評価指標	職員の仕事場についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価			
①校務運営体制の効率化と充実を図る	① 教員の職務の満足度	90%以上	① 98.3%	A	(評定)	<p>コンプライアンスや危機管理については、「よくあてはまる」ではなく「ややあてはまる」と回答した職員が3〜4割いた。研修活動が3〜4割日常的な啓発活動が必要である。</p> <p>「育成・評価システム」に関する今年度初めに行うことがあてはまるが、全職員がこれに基づく自己向上の学習機会を確保できるようにしていく必要がある。新しい学習システムや研修を積極的に取り入れ、生徒の姿勢を育てるよう、個々の教員が具体的に授業改善を図る。</p>		
	②-1 コンプライアンスに対する自己評価	90%以上	②-1 100.0%				A	
②教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る	②-2 危機管理に対する取り組み	90%以上	②-2 98.3%	A	<p>B</p> <p>（所見）今年度、授業公開週間に合わせて「相互参観授業週間」を設定し、他の教師や一般の方に参観してもらったり、感想やアドバイスを交換すること、自分の授業を客観視することができた。これを、授業改善につなげる。</p> <p>コンプライアンス研修は、非常勤講師も含めて職員全員で取り組むことができた。情報セキュリティに関する研修を実施し、アンケートの結果も満足できる状況であった。</p> <p>「育成・評価システム」を全職員対象に実施した。従来の「資質向上プログラム」との意識の変化はあくまで、PDC Aサイクルによる自己や組織の向上につなげるところまでは至っていない。</p>			
	②-1 情報セキュリティポリシーについての研修会の実施回数	年2回	②-1 7月16日実施 12月実施(e-ラーニング)	B				
③校内外の研修を通じて指導力の向上を図る	②-2 職員全体でのコンプライアンス研修会の実施回数	年2回	②-2 5月に1回実施	C				
	③-1 校内での研究授業・授業研究会参加人数	50名以上	③-1 58名	B				
	②-2 校内での相互参観授業週間の実施回数	年1回以上	③-2 11月に相互参観授業週間実施、参観シート2枚提出	B				
	③-3 校外での授業力向上研修参加人数	5名以上	③-3 7名が参加	B				
	③-4 「育成・評価システム」を全職員対象に実施し、PDC Aサイクルを構築する。		③-4 「育成・評価システム」を全職員対象に試行実施	B				
	活動計画	活動計画の実施状況						
①-1 校内組織の活性化を図るため、学年主任等を中心とした月例連絡会をもつ。	①-1 主任等連絡会を毎月実施し、共通理解しておくべきことや、課題への対応について協議している。	①-2 共有ホルダーを階層レベルごとに再設定し、整理・活用しやすくするとともに、不要ファイルの削除した。原則USBの使用を禁止すること、デジタル情報の漏洩を防いでいる。	②-1 推進室から講師を招けなかった。11月16日県教委計画訪問時に研究授業を実施した。	③-1 11月2日(月)〜6日(金)に授業公開週間を実施した。授業参観シートを1人2枚提出し授業改善に活用した。理科1名、公民1名、数学2名、英語1名、AL2名が参加した。改正地方公務員法に基づき、「育成・評価システム」を今年度試行した。自己評価と客観評価を次年度への課題の設定につなげた。		③-2 11月2日(月)〜6日(金)に授業公開週間を実施した。授業参観シートを1人2枚提出し授業改善に活用した。理科1名、公民1名、数学2名、英語1名、AL2名が参加した。改正地方公務員法に基づき、「育成・評価システム」を今年度試行した。自己評価と客観評価を次年度への課題の設定につなげた。	③-3 予備校等の授業力向上研修に参加する。	③-4 全職員（非常勤講師を除く）が、「目標管理シート」を効果的に使用し、自らの課題や責務を客観的に捉え、明確化するとともに、次年度への改善に生かせるスキルを身につける。
①-2 校内文書情報の共有化を図り効率的な校務事務処理を構築する。	①-2 校内文書情報の共有化を図り効率的な校務事務処理を構築する。	②-1 研修会を通して、「情報セキュリティポリシー」を徹底し、確実に実行できるようにする。	②-2 外部講師による研修会を実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。	③-1 計画訪問等も含め、職員研修・研究授業を計画的に配置する。		③-2 相互参観授業週間を実施し、生徒の状況把握や授業改善に役立つ。	③-3 予備校等の授業力向上研修に参加する。	③-4 全職員（非常勤講師を除く）が、「目標管理シート」を効果的に使用し、自らの課題や責務を客観的に捉え、明確化するとともに、次年度への改善に生かせるスキルを身につける。
②-1 研修会を通して、「情報セキュリティポリシー」を徹底し、確実に実行できるようにする。	②-1 研修会を通して、「情報セキュリティポリシー」を徹底し、確実に実行できるようにする。	②-2 外部講師による研修会を実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。	③-1 計画訪問等も含め、職員研修・研究授業を計画的に配置する。	③-2 相互参観授業週間を実施し、生徒の状況把握や授業改善に役立つ。	③-3 予備校等の授業力向上研修に参加する。	③-4 全職員（非常勤講師を除く）が、「目標管理シート」を効果的に使用し、自らの課題や責務を客観的に捉え、明確化するとともに、次年度への改善に生かせるスキルを身につける。		